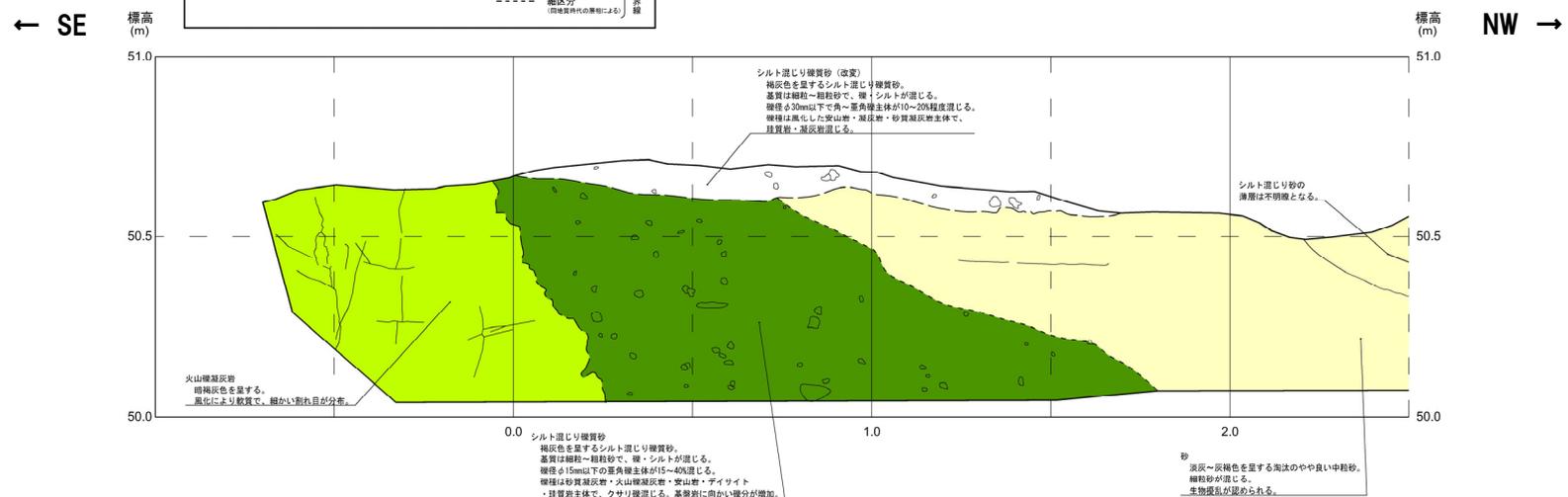
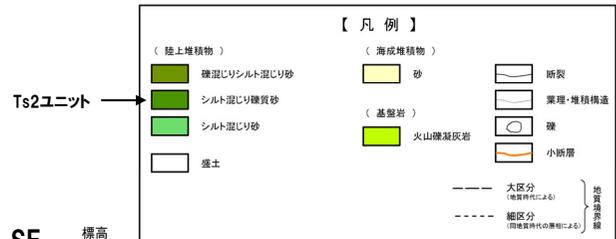
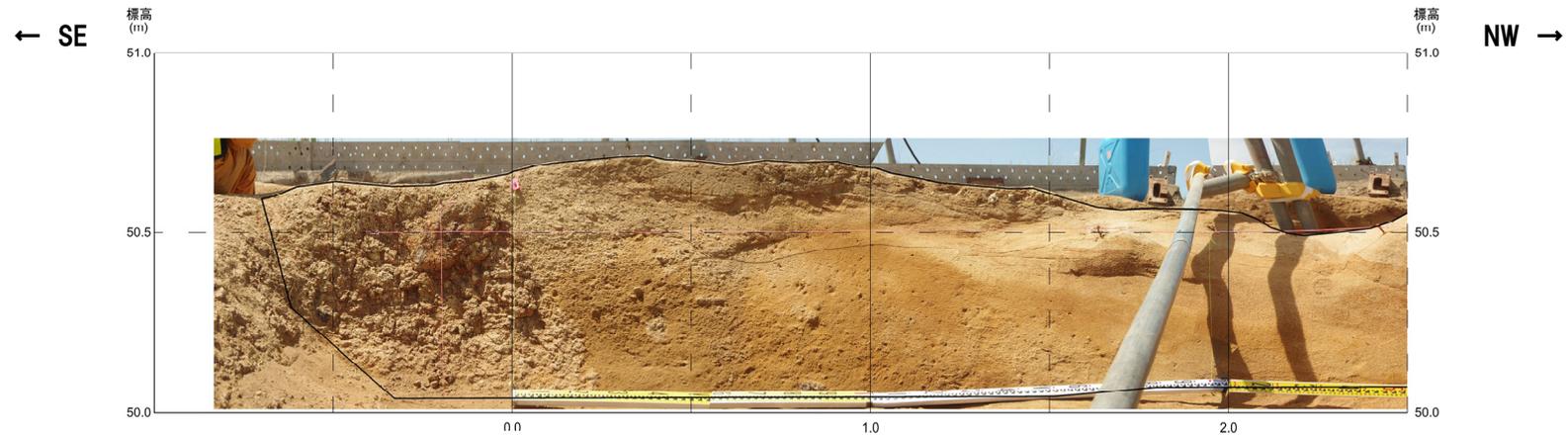


余白

2.2.1 地層区分の整理

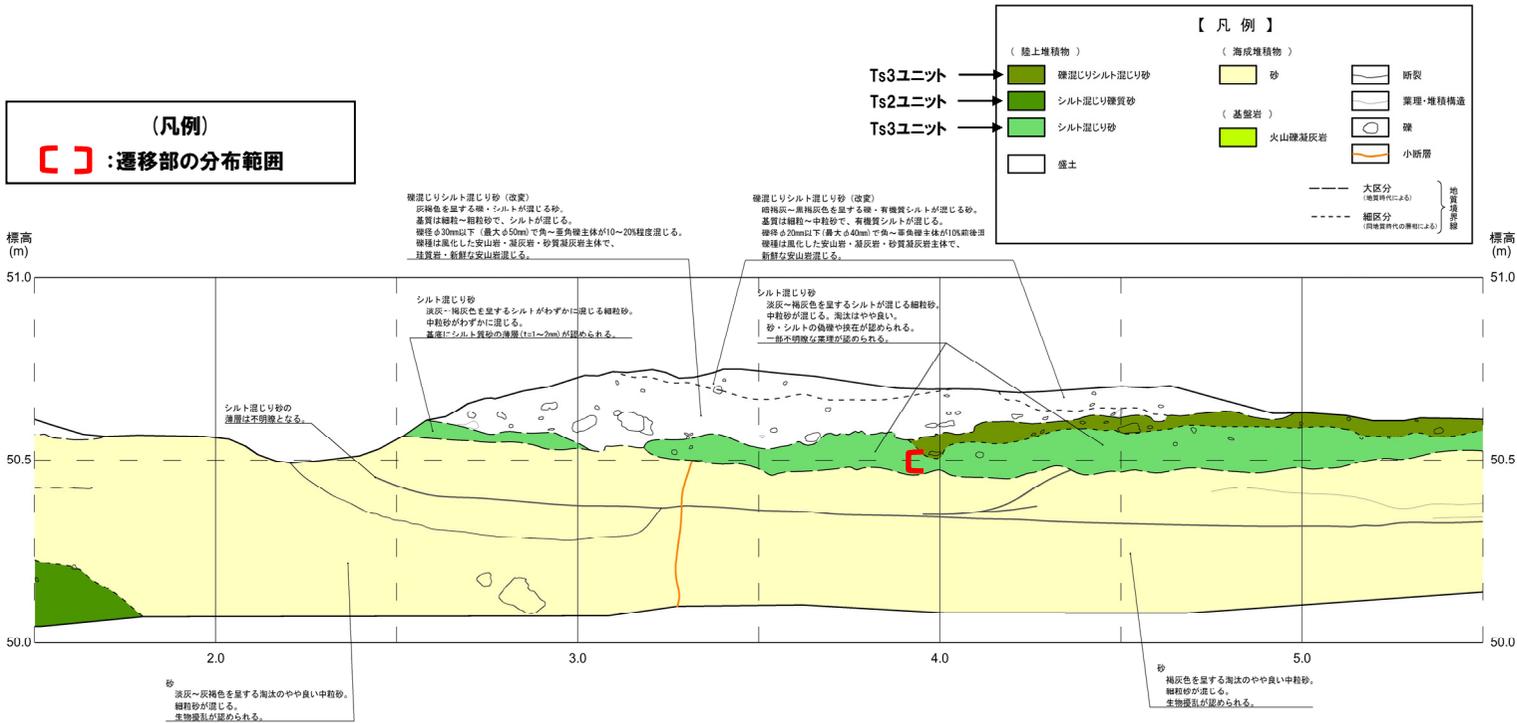
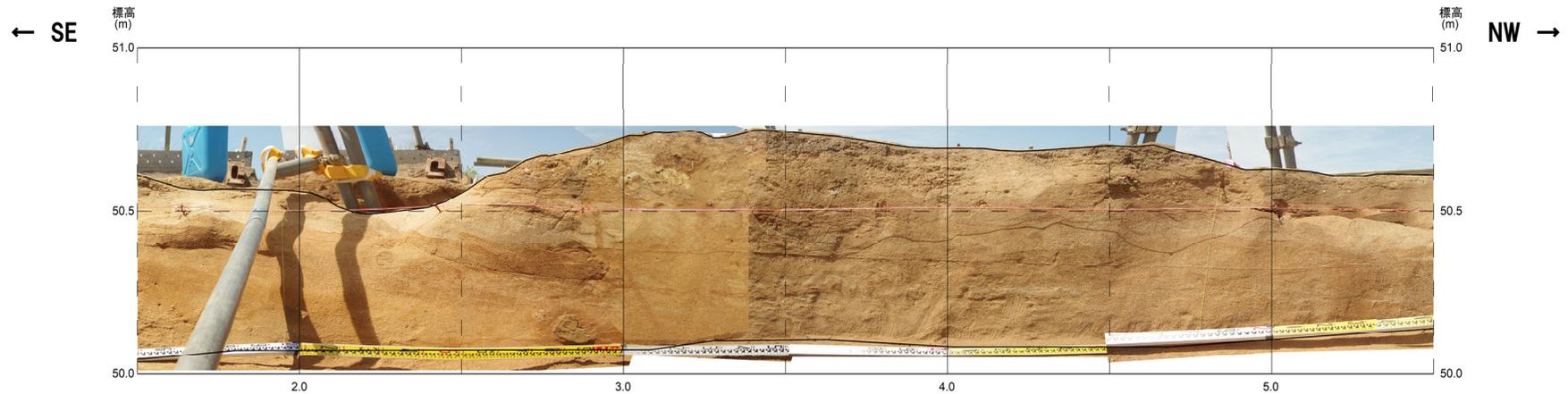
②-4 小段部海側壁面 写真及びスケッチ (2/5)



開削調査箇所(南側) 小段部海側壁面 写真及びスケッチ (範囲A)

2.2.1 地層区分の整理

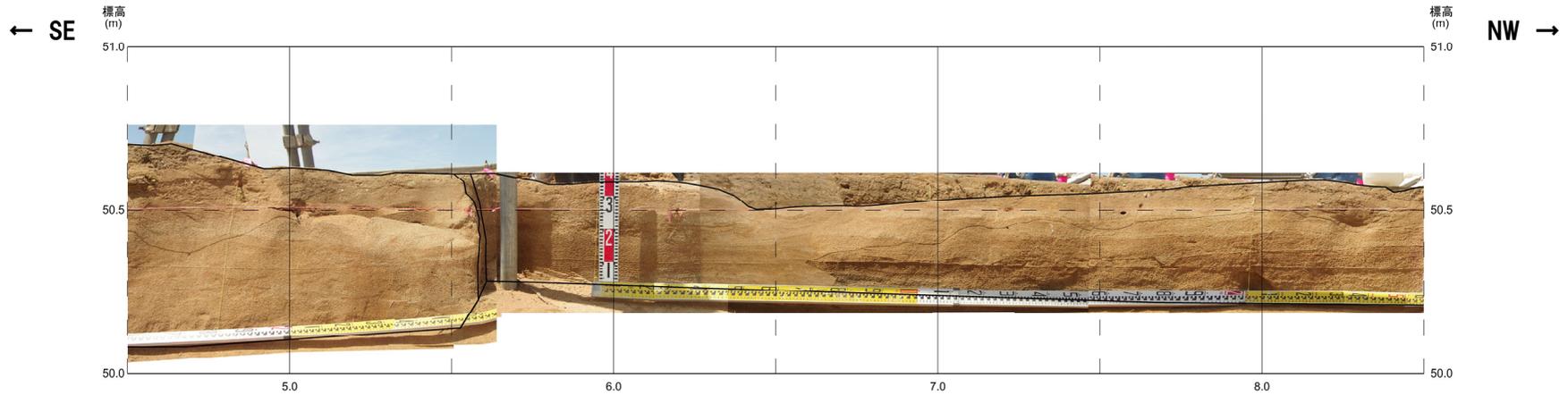
②-4 小段部海側壁面 写真及びスケッチ (3/5)



開削調査箇所(南側) 小段部海側壁面 写真及びスケッチ (範囲B)

2.2.1 地層区分の整理

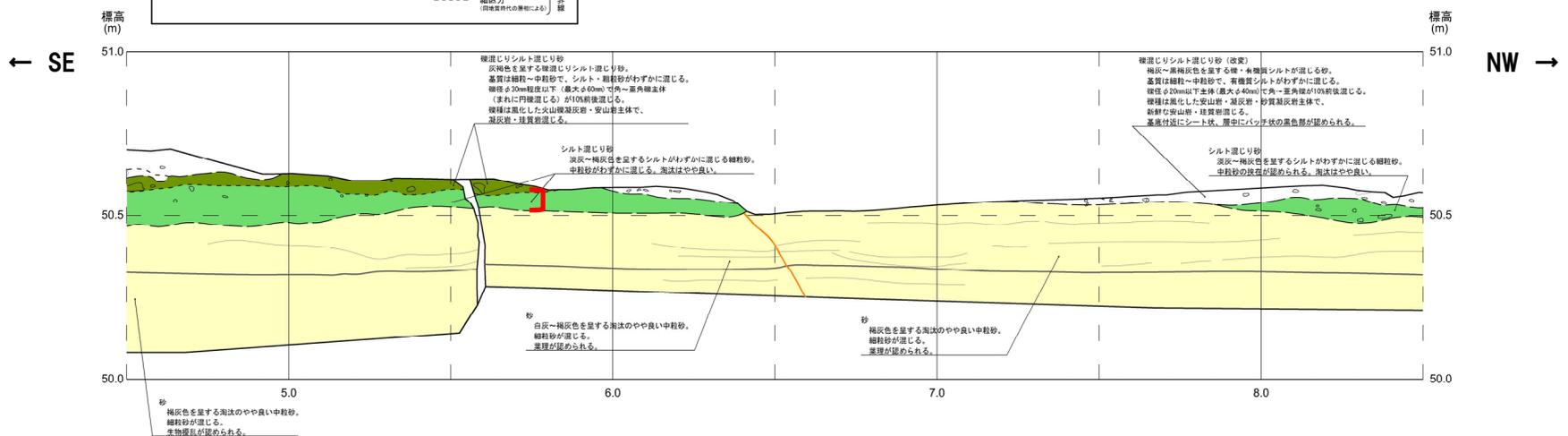
②-4 小段部海側壁面 写真及びスケッチ (4/5)



【凡例】

(陸上堆積物)		(海成堆積物)		断崖	
Ts3ユニット	礫混じりシルト混じり砂	砂	基理・堆積構造	礫	地質境界線
Ts3ユニット	シルト混じり礫質砂	(基盤岩)	小断層	大区分 (地質図による)	
	シルト混じり砂	火山礫凝灰岩		細区分 (地質図時代の単位による)	
	塵土				

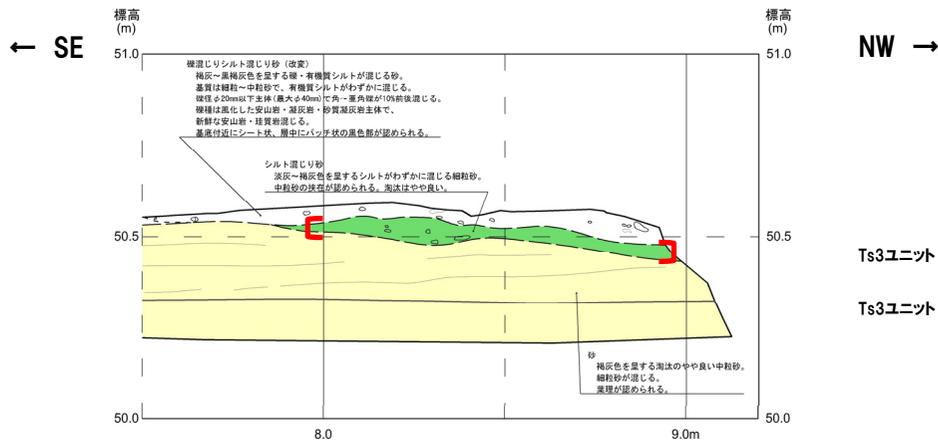
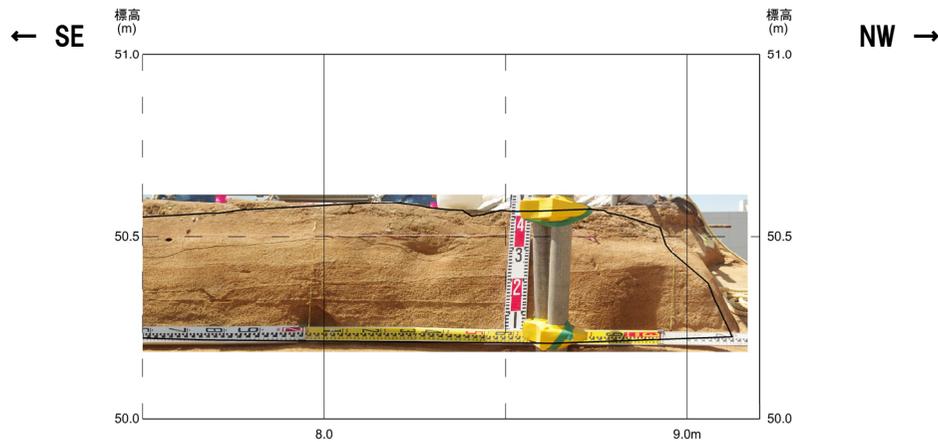
(凡例)
[] : 遷移部の分布範囲



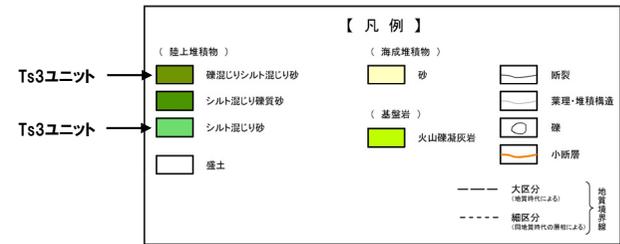
開削調査箇所(南側)小段部海側壁面 写真及びスケッチ(範囲C)

2.2.1 地層区分の整理

②-4 小段部海側壁面 写真及びスケッチ (5/5)



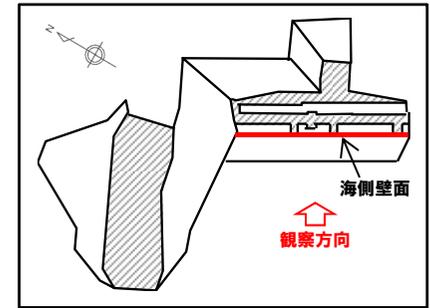
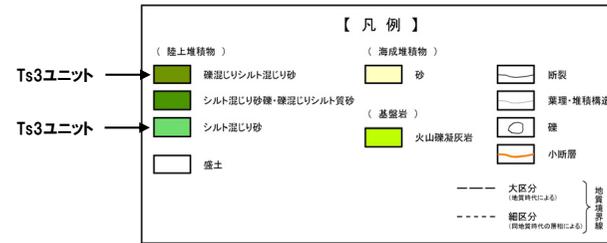
【凡例】
 [] : 遷移部の分布範囲



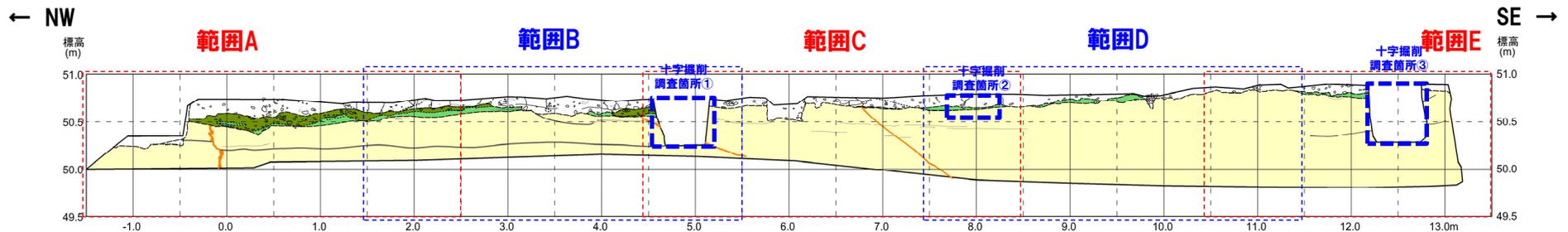
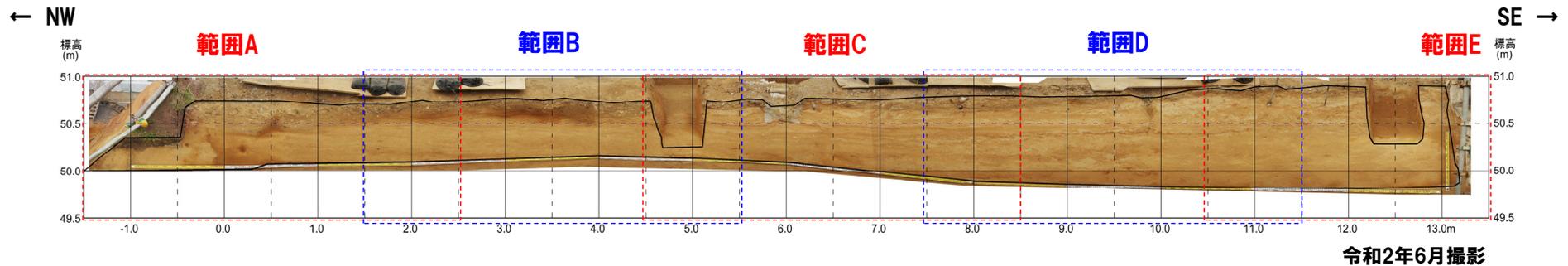
開削調査箇所(南側) 小段部海側壁面 写真及びスケッチ (範囲D)

2.2.1 地層区分の整理

②-5 海側壁面 写真及びスケッチ (1/6)



平面図

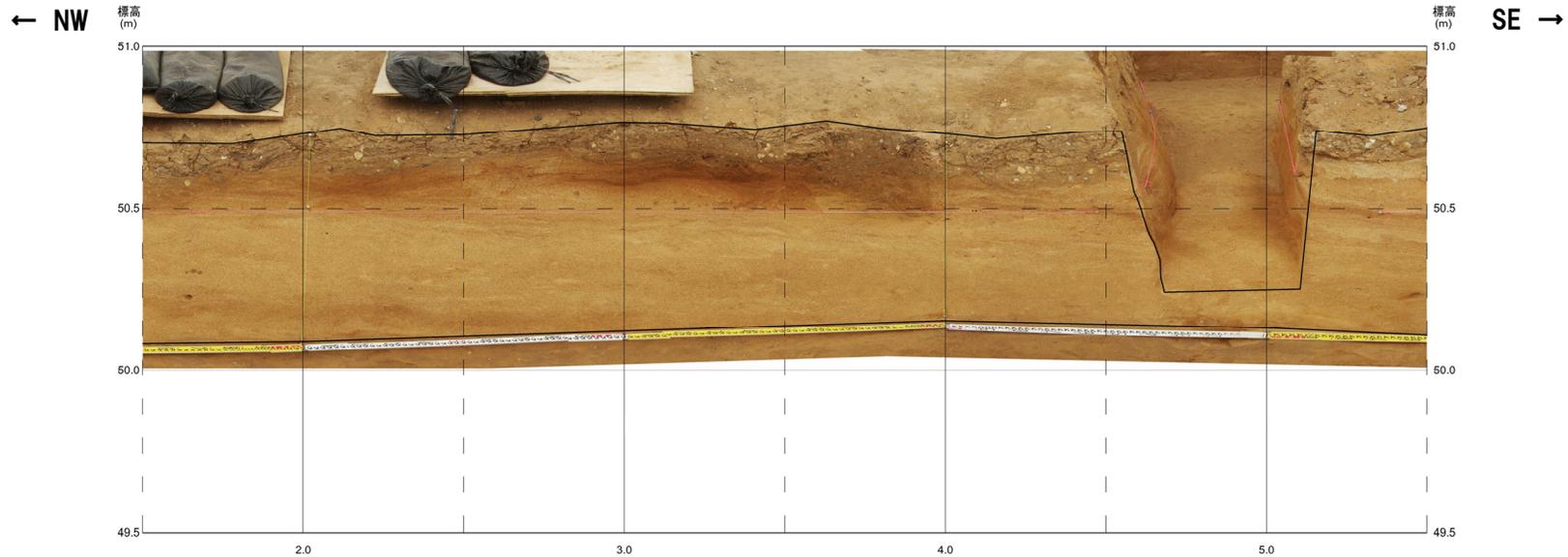


開削調査箇所(南側)海側壁面 写真及びスケッチ

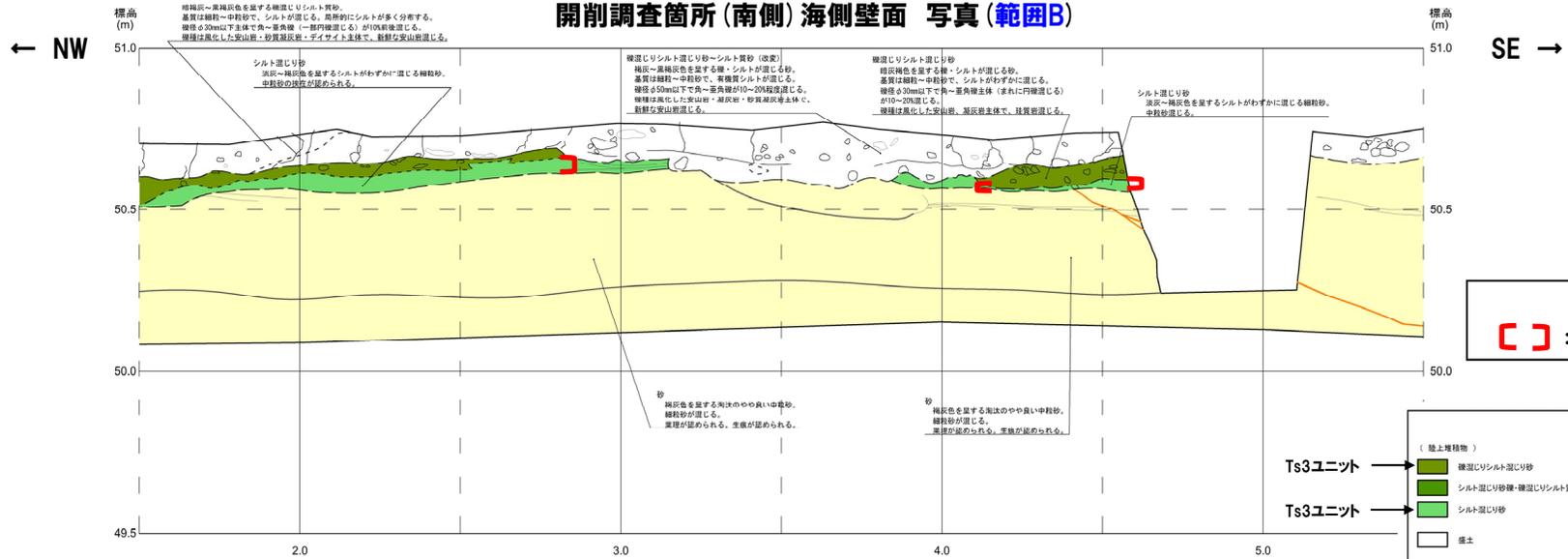
余白

2.2.1 地層区分の整理

②-5 海側壁面 写真及びスケッチ (3/6)



開削調査箇所(南側)海側壁面 写真(範囲B)



(凡例)
 [] : 遷移部の分布範囲

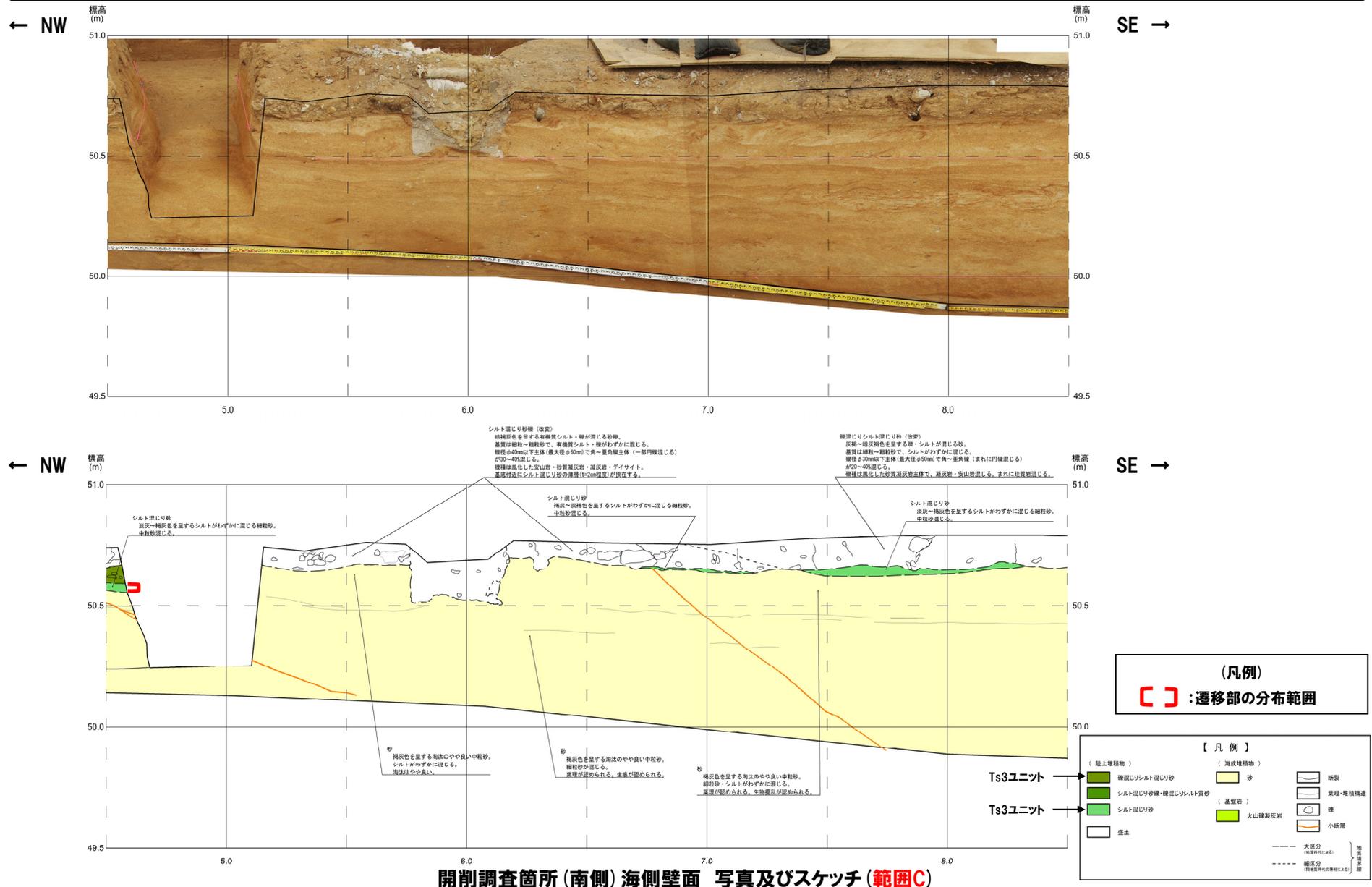
Ts3ユニット
 Ts3ユニット

【凡例】
 (陸上堆積物)
 緑色 細粒じりシルト混じり砂
 黄緑色 シルト混じり砂
 黄色 シルト混じり砂
 (基盤岩)
 赤褐色 火山噴出物
 黄土
 (海成堆積物)
 黄色 砂
 緑色 泥炭・堆積構造
 赤褐色 礫
 赤褐色 小礫層
 赤褐色 大区分 (埋深約10m)
 赤褐色 細区分 (埋深約10m)
 埋深約10m以上

開削調査箇所(南側)海側壁面 写真及びスケッチ(範囲B)

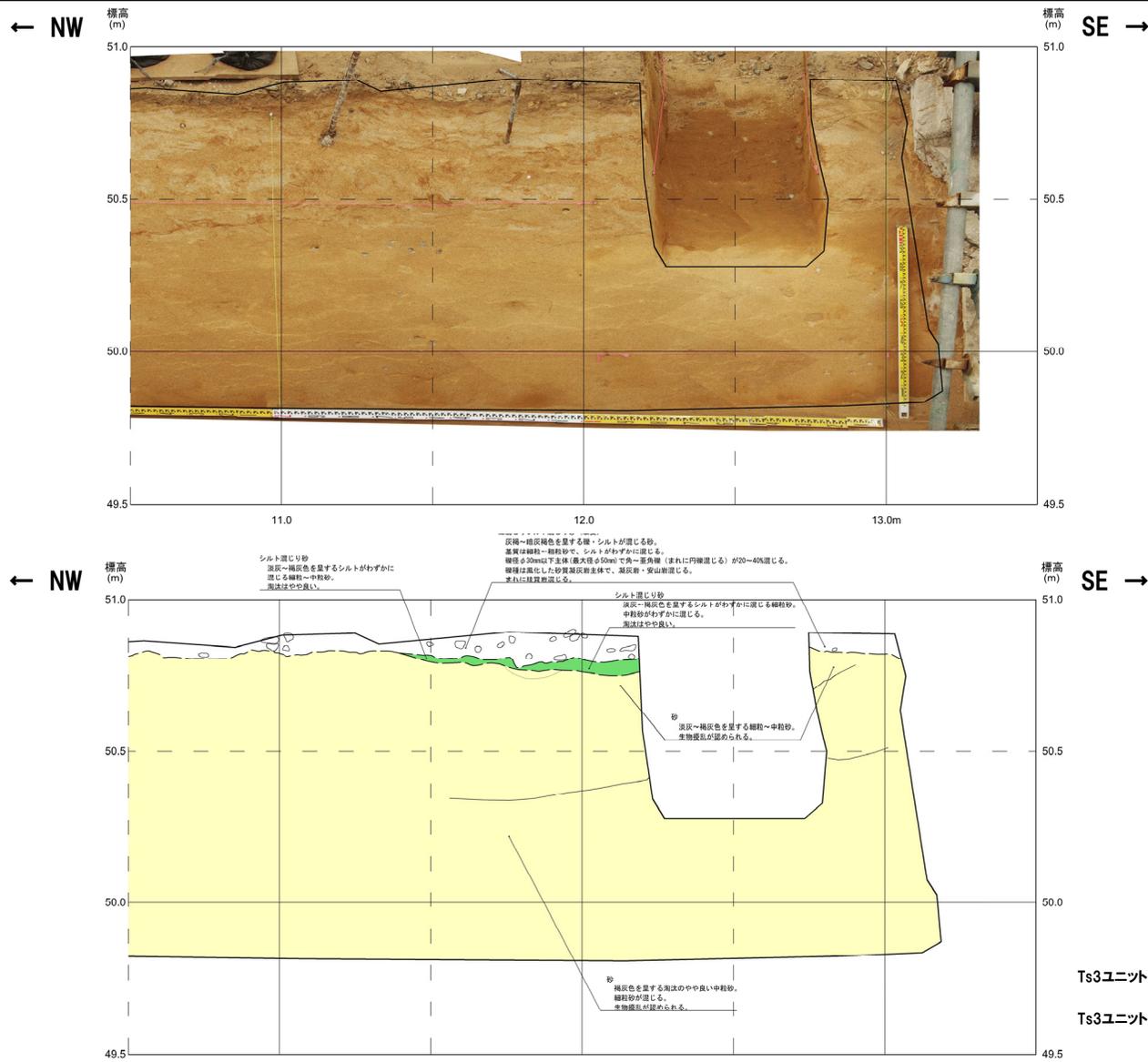
2.2.1 地層区分の整理

②-5 海側壁面 写真及びスケッチ (4/6)



2.2.1 地層区分の整理

②-5 海側壁面 写真及びスケッチ (6/6)



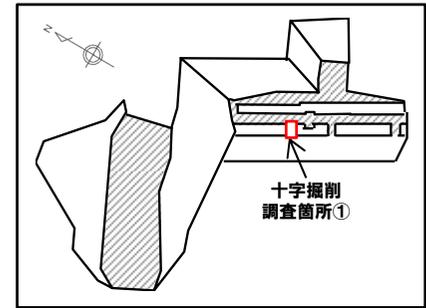
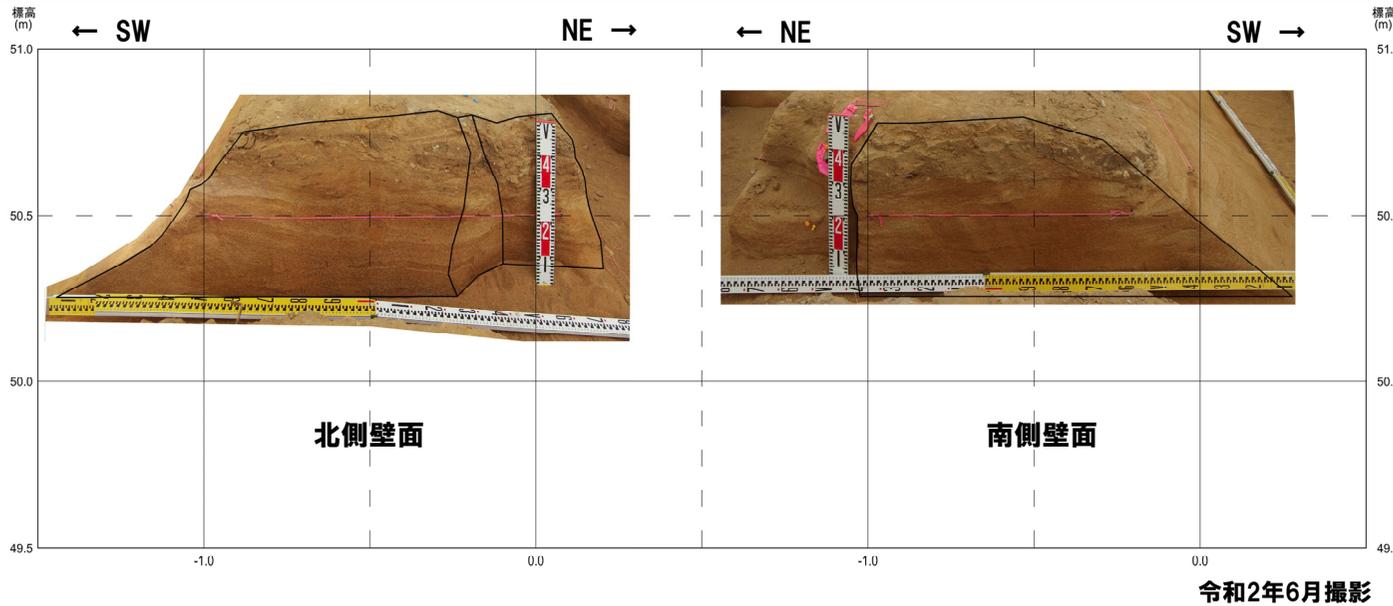
開削調査箇所(南側)海側壁面 写真及びスケッチ (範囲E)



余白

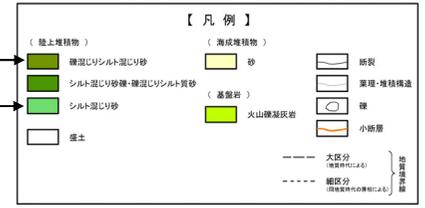
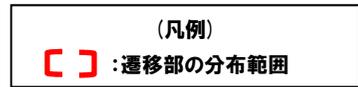
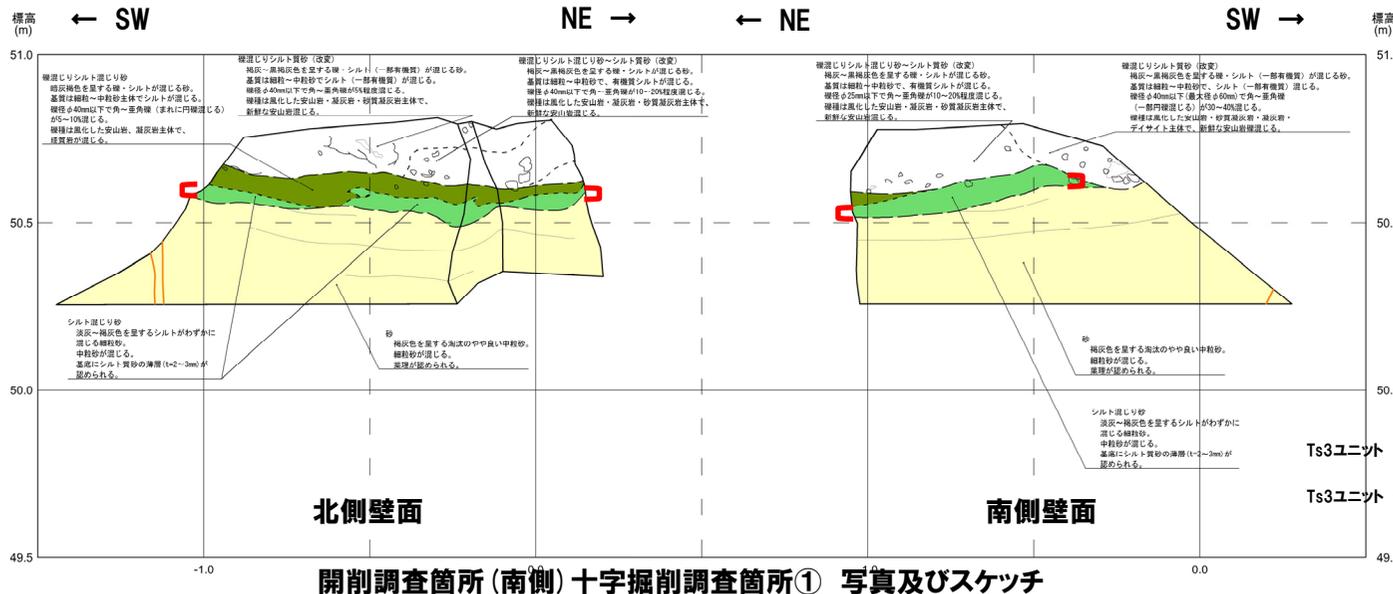
2.2.1 地層区分の整理

②-6 十字掘削調査箇所① 写真及びスケッチ



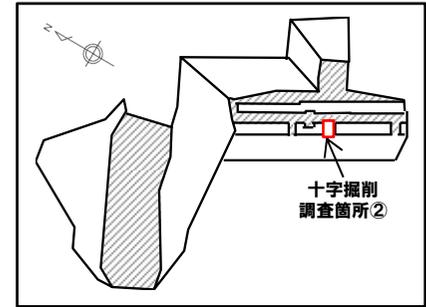
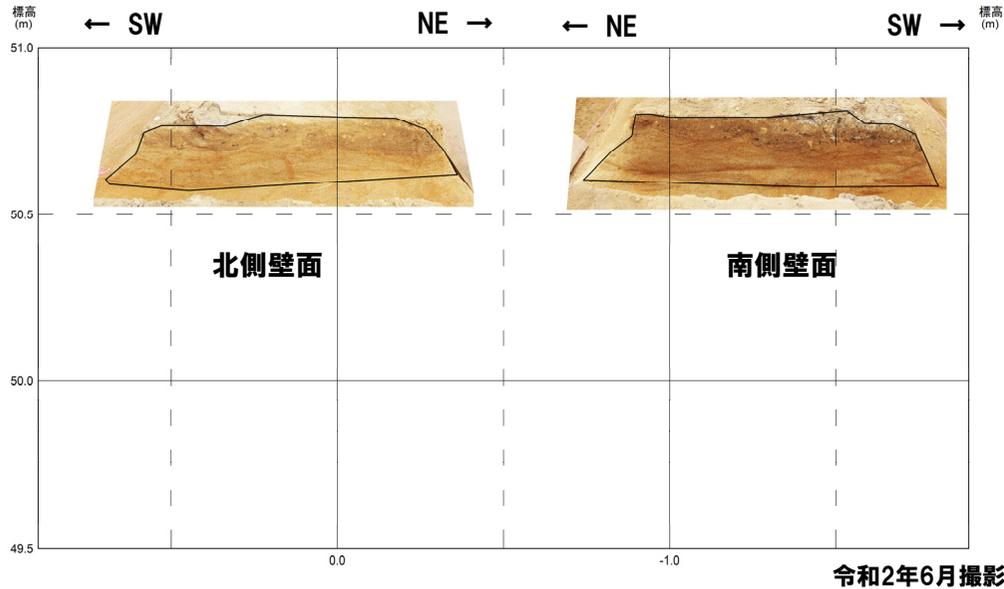
平面図

令和2年6月撮影



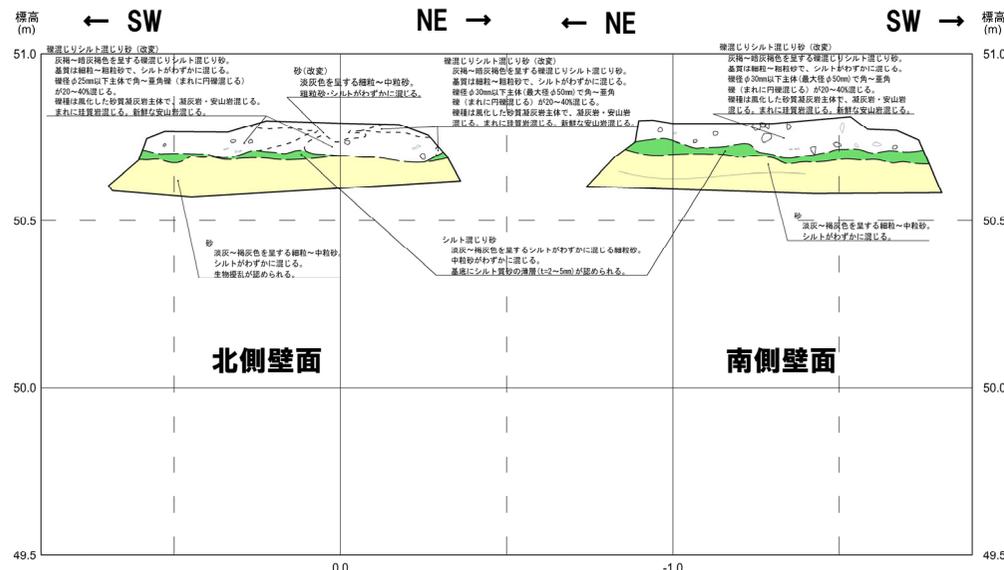
2.2.1 地層区分の整理

②-6 十字掘削調査箇所② 写真及びスケッチ



平面図

令和2年6月撮影

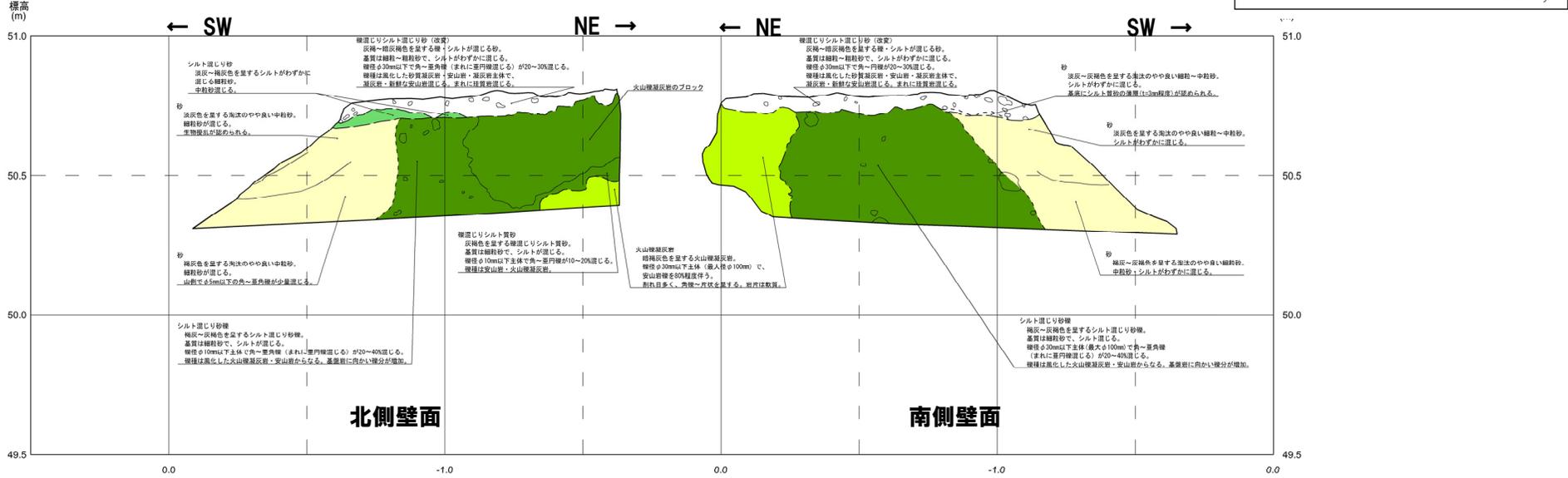
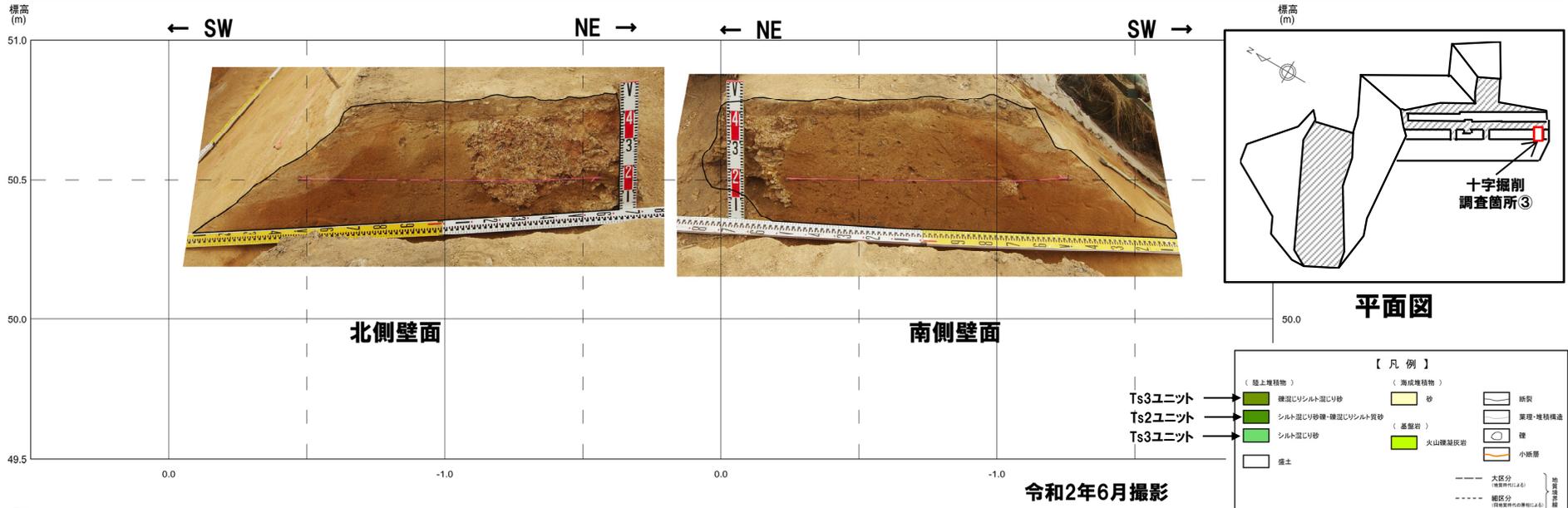


開削調査箇所(南側) 十字掘削調査箇所② 写真及びスケッチ



2.2.1 地層区分の整理

②-6 十字掘削調査箇所③ 写真及びスケッチ



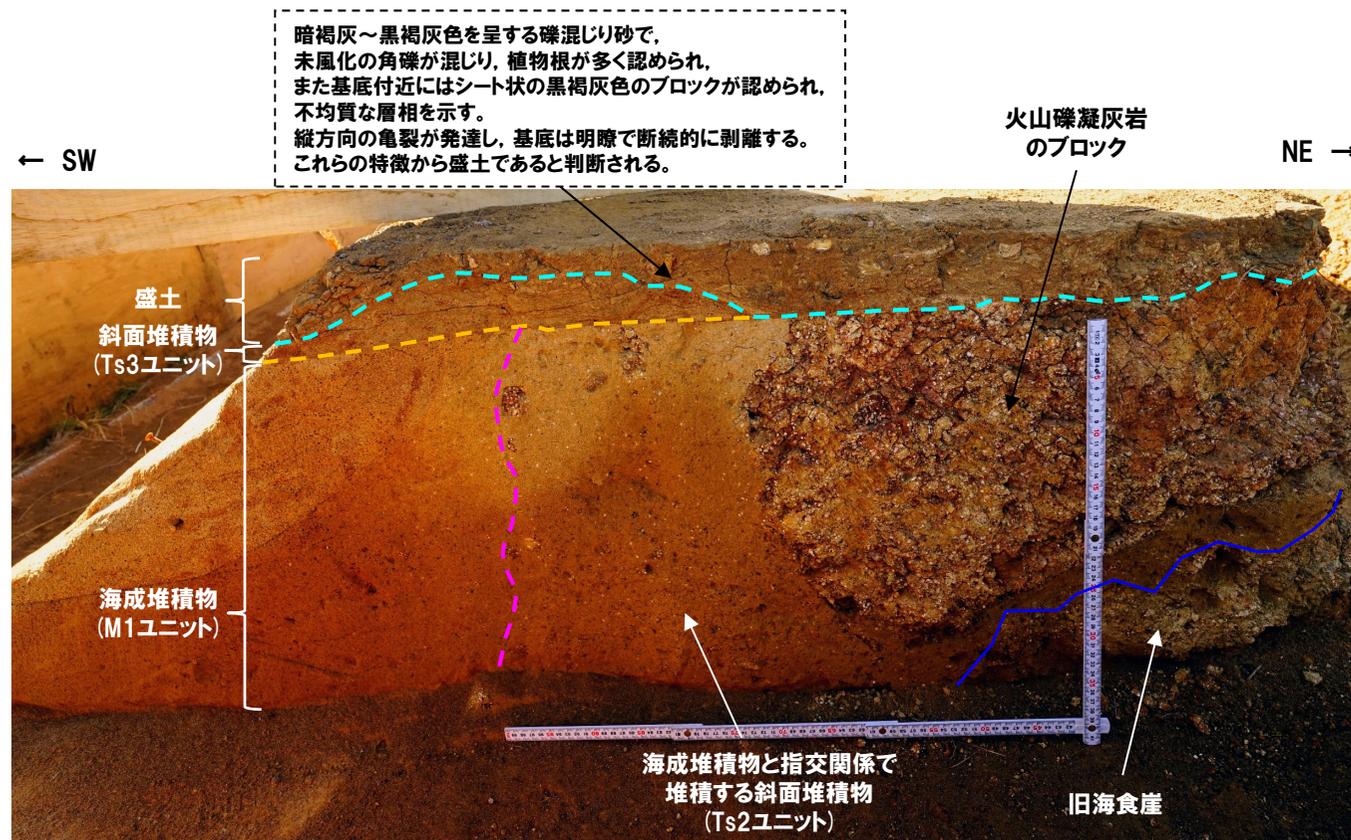
開削調査箇所(南側)十字掘削調査箇所③ 写真及びスケッチ

余白

2.2.1 地層区分の整理

(参考) 旧海食崖の南東側における盛土の分布状況 (1/2)

- 南側壁面の背後法面において旧海食崖を確認した箇所の南東側における盛土の分布状況について、R2.4.16審査会合以降に実施した十字掘削調査箇所③において確認した。
- 当該箇所海側においては、下位よりTs2ユニットと同標高に分布するものと考えられる斜面堆積物、M1ユニット、Ts3ユニット及び盛土が認められた。
- 山側においては旧海食崖を形成する基盤岩である火山礫凝灰岩の上位に直接盛土が分布する状況が認められた。
- 開削調査箇所(南側)付近においては、敷地造成時に5~10mの切り取りがなされていることから(P355参照)、当該箇所において盛土が分布する。

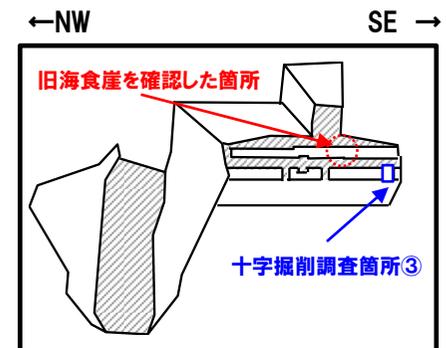


拡大写真(十字掘削箇所③ 北側壁面)(解釈線あり)

令和2年6月撮影



十字掘削調査箇所③



平面図

2.2.1 地層区分の整理

(参考) 旧海食崖の南東側における盛土の分布状況 (2/2)

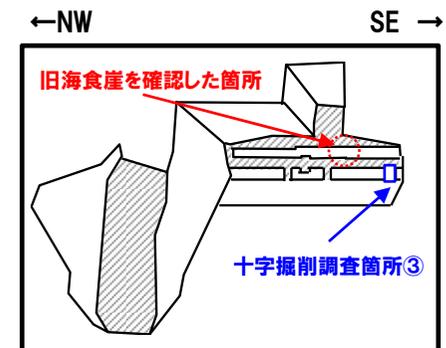


拡大写真(十字掘削箇所③ 北側壁面)(解釈線なし)

令和2年6月撮影



十字掘削調査箇所③

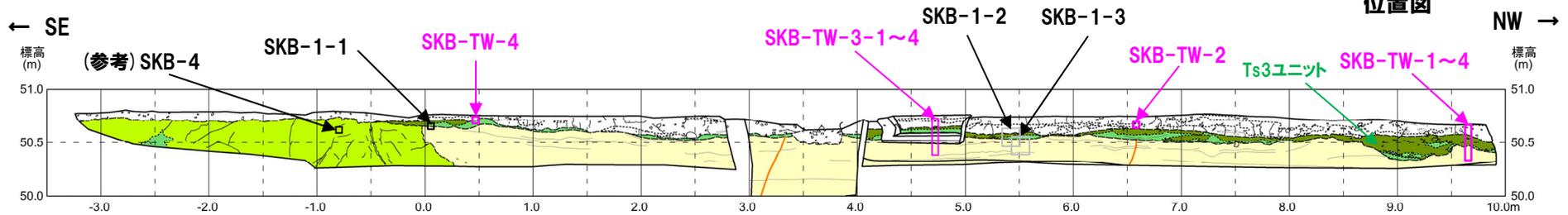
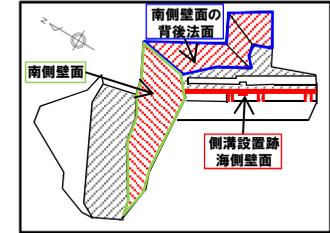


平面図

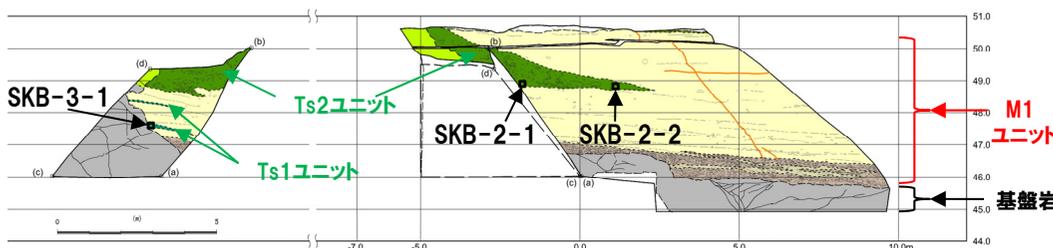
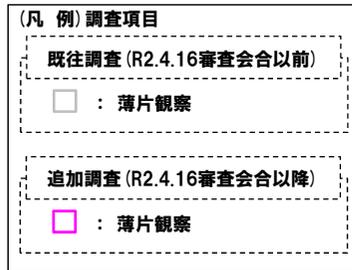
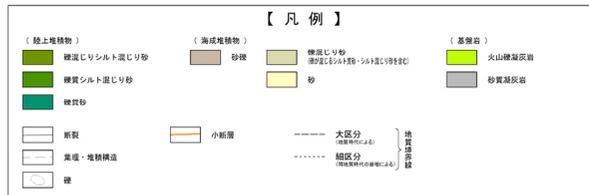
2.2.2 地層区分の妥当性

①薄片観察-まとめ(1/3)-

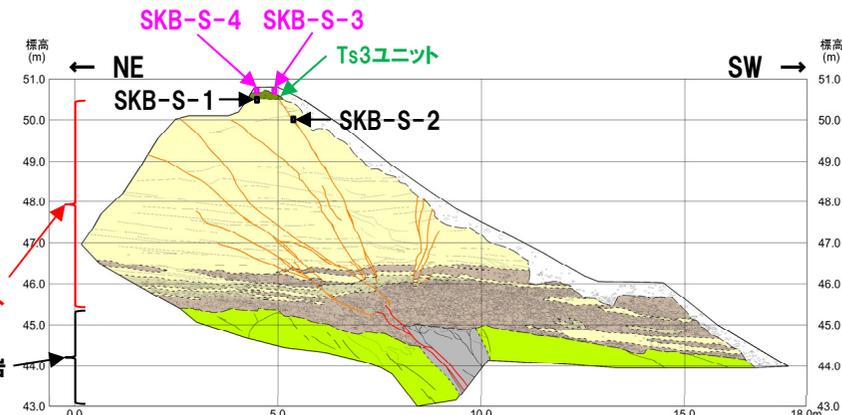
- 層相確認及びはぎとり転写試料において区分された盛土、Ts3ユニット、遷移部(Ts3ユニット)及びM1ユニットについて、より微細な特徴を明らかにするため、薄片観察を行った。
- 薄片観察の結果、各堆積物には明瞭に異なる特徴(次頁参照)が認められる。
- なお、Ts3ユニット及びM1ユニットにおいては、R2.4.16において提示したSKB-1-1~1-3及びSKB-S-1において認められる特徴と同様な特徴が認められる。



側溝設置跡(海側壁面)詳細スケッチ



開削調査箇所(南側) 南側壁面の背後法面 壁面スケッチ



開削調査箇所(南側) 南側壁面 壁面スケッチ

2.2.2 地層区分の妥当性

①薄片観察-まとめ(2/3)-

○南側壁面及び南側壁面の背後法面における薄片観察の結果、盛土、Ts3ユニット、遷移部(Ts3ユニット)及びM1ユニットの特徴を下表に整理した。

薄片観察結果

地層区分	ユニット区分		特徴
盛土	-		<ul style="list-style-type: none"> 粘土鉱物及び泥粒径の碎屑物が薄片試料全体に認められ、局所的に卓越して多い箇所が認められる 粘土鉱物及び泥粒径の碎屑物が認められない箇所がまだらに分布する 角ばった砂粒径の碎屑物を主体とし、丸みを帯びた砂粒径の碎屑物が混じる 盛土敷均しの影響を受けているものと考えられる粘土鉱物及び泥粒径の碎屑物からなる薄層及び腐植土が認められる 水平方向に連続する空隙が認められる 植物片が認められる
斜面堆積物	Ts3	-	<ul style="list-style-type: none"> 角ばった砂粒径の碎屑物を主体とし、丸みを帯びた砂粒径の碎屑物が少量混じる 粒子間に粘土鉱物及び泥粒径の碎屑物が認められ、局所的に濃集する 旧海食崖を形成する基盤岩である火山礫凝灰岩由来と考えられる垂角～垂円礫が認められる
		遷移部	<ul style="list-style-type: none"> 丸みを帯びた砂粒径の碎屑物を主体とし、角ばった砂粒径の碎屑物が少量混じる 粒子間に少量の泥粒径の碎屑物及び粘土鉱物が認められる
海成堆積物	M1		<ul style="list-style-type: none"> 丸みを帯びた砂粒径の碎屑物を主体とし、粒子の縁に泥粒径の碎屑物がわずかに認められる 粒子間は空隙となっており粘土鉱物は認められない 酸化鉄の沈着が認められる



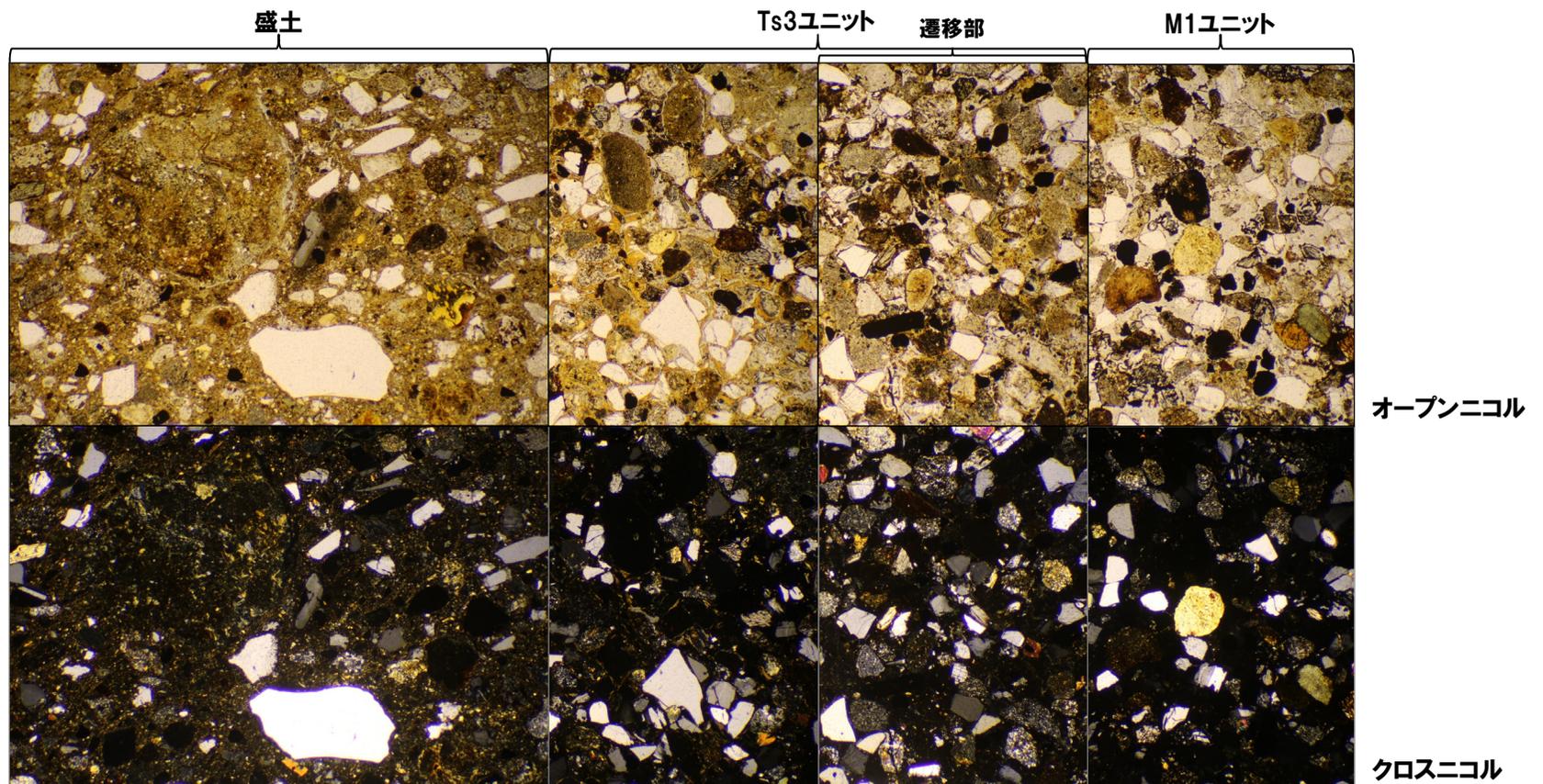
○薄片観察の結果、各堆積物及び盛土は明瞭に異なる特徴が認められる。

2.2.2 地層区分の妥当性

①薄片観察-まとめ(3/3)-

○盛土, Ts3ユニット, 遷移部 (Ts3ユニット) 及びM1ユニットの代表的な性状は以下の通り。

- ・盛土は黄褐色を呈する粘土鉱物及び泥粒径の碎屑物が薄片試料全体に認められ, 角ばった砂粒径の碎屑物を主体とする。
- ・Ts3ユニットは角ばった砂粒径の碎屑物を主体とし, 丸みを帯びた砂粒径の碎屑物が少量混じる。粒子間に粘土鉱物及び泥粒径の碎屑物が認められ, 局所的に濃集する。
- ・遷移部 (Ts3ユニット) は丸みを帯びた砂粒径の碎屑物を主体とし, 角ばった砂粒径の碎屑物が少量混じる。粒子間に少量の泥粒径の碎屑物及び粘土鉱物が認められる。
- ・M1ユニットは丸みを帯びた砂粒径の碎屑物を主体とし, 粒子の縁に泥粒径の碎屑物がわずかに認められるが, 粒子間は空隙となっており, 粘土鉱物は認められない。



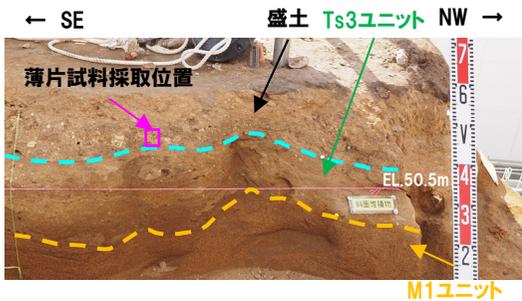
余白

2.2.2 地層区分の妥当性

①薄片観察-SKB-TW-1-1(1/2)-

【SKB-TW-1-1(盛土)】

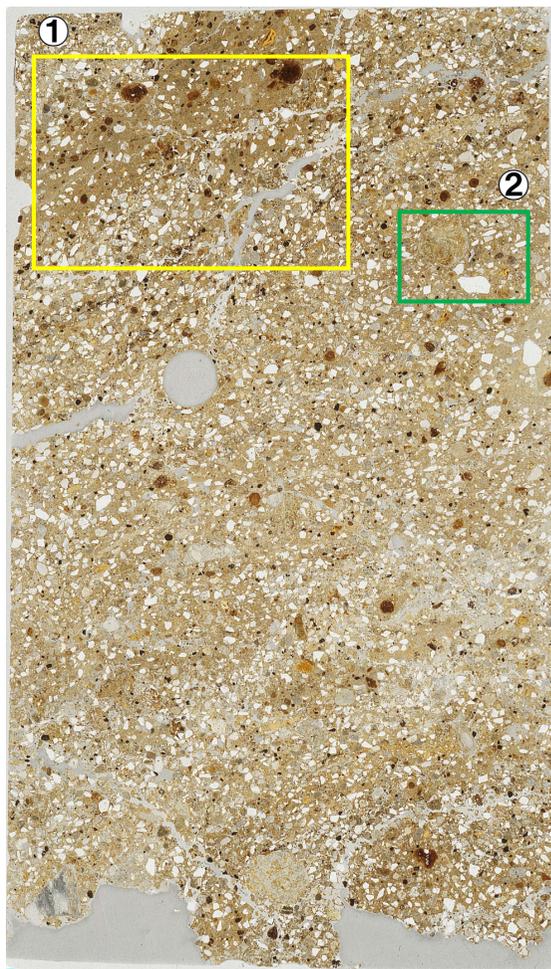
- 黄褐色を呈する粘土鉱物及び泥粒径の碎屑物が卓越して多い箇所が認められ、内部及び周辺の砂粒径の碎屑物は定向配列している(拡大写真①)ことから、盛土敷均しの影響を受けているものと考えられる。
- A部及びその周辺部(拡大写真②)のように、砂粒径の碎屑物の量及び粒径の異なる箇所が認められ、粒子の形状及び粒径等が変化に富み、不均質な性状を示す。



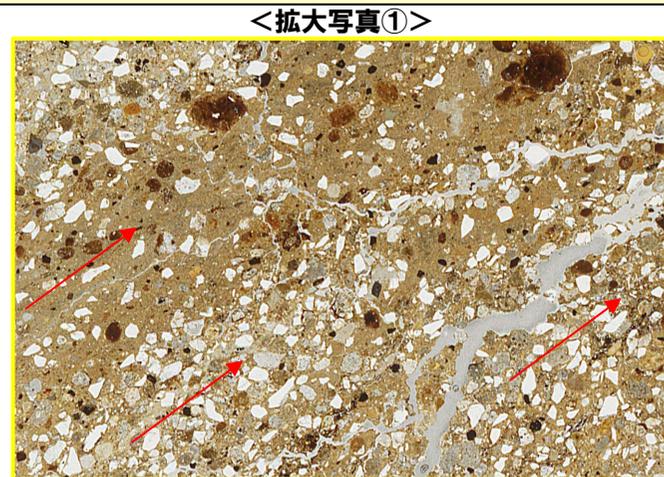
開削調査箇所(南側) 南側壁面の背後法面
薄片試料採取位置



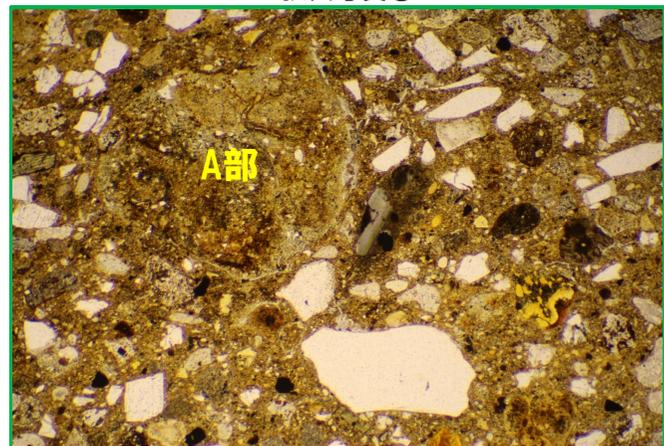
薄片試料写真(作成前)
5cm



オープンニコル
10mm



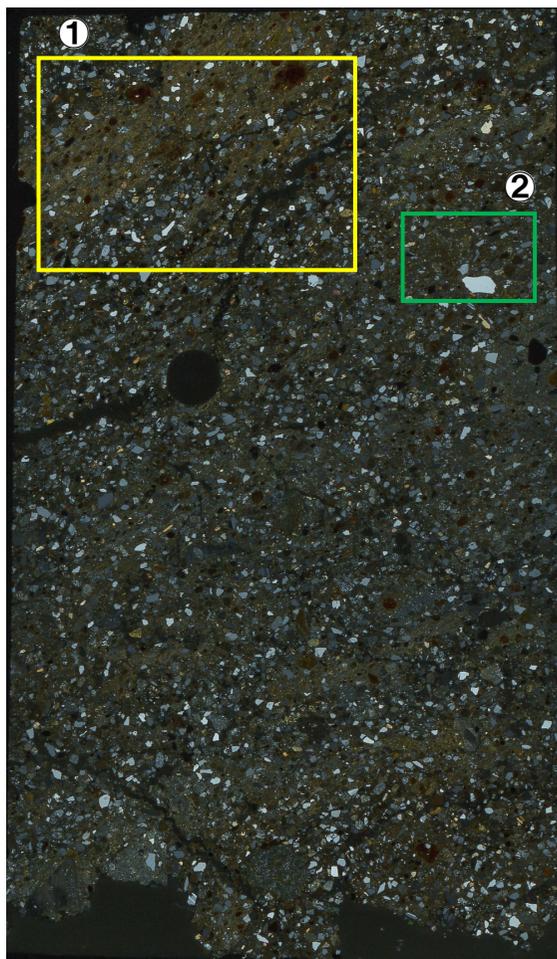
オープンニコル
<拡大写真①>
2mm



オープンニコル
<拡大写真②>
1mm

2.2.2 地層区分の妥当性

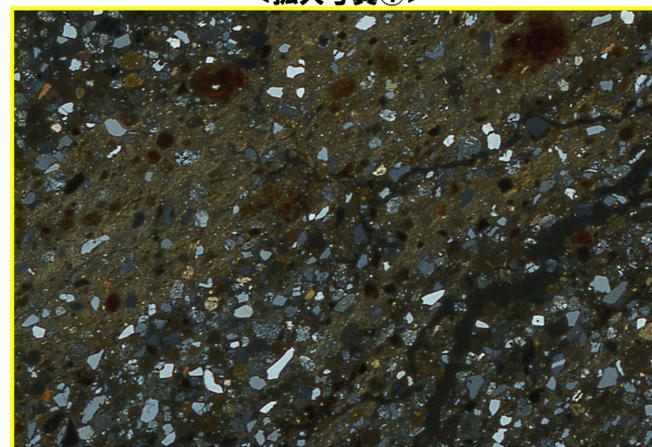
①薄片観察-SKB-TW-1-1(2/2)-



クロスニコル

10mm

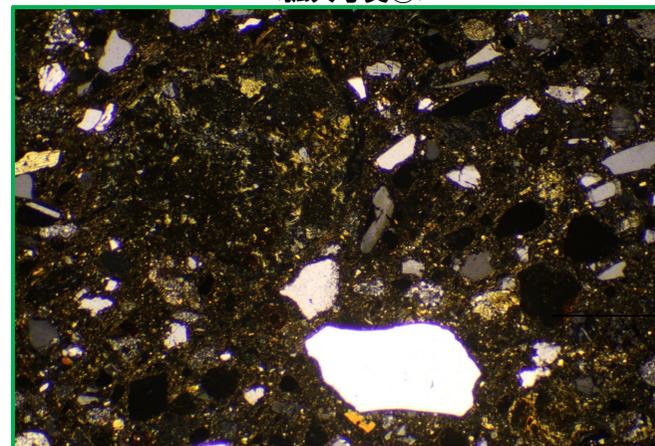
<拡大写真①>



クロスニコル

2mm

<拡大写真②>



クロスニコル

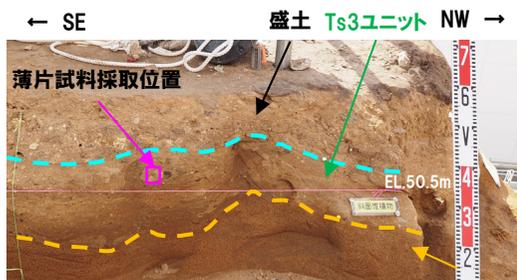
1mm

2.2.2 地層区分の妥当性

①薄片観察-SKB-TW-1-2(1/2)-

【SKB-TW-1-2 (Ts3ユニット)】

- 角ばった砂粒径の碎屑物を主体とし、丸みを帯びた砂粒径の碎屑物が少量混じる。粒子間に粘土鉱物及び泥粒径の碎屑物が認められ(拡大写真①)、局所的に濃集する(拡大写真②)。
- 旧海食崖を形成する基盤岩である火山礫凝灰岩由来と考えられる細礫サイズの亜角～亜円礫が認められる。



開削調査箇所(南側) 南側壁面の背後法面
薄片試料採取位置



5cm
薄片試料写真(作成前)

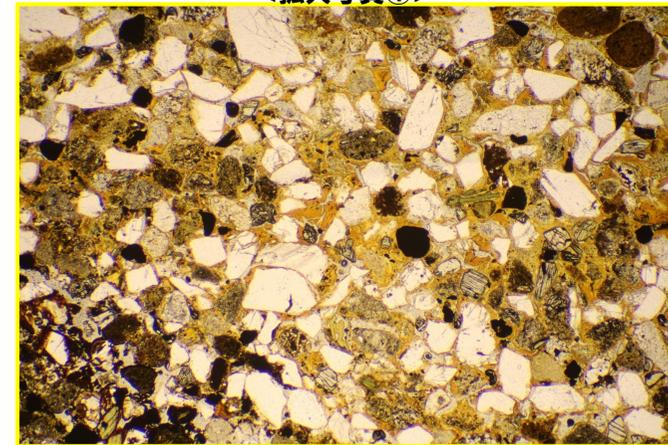


粘土
鉱物が
濃集

オープンニコル

10mm

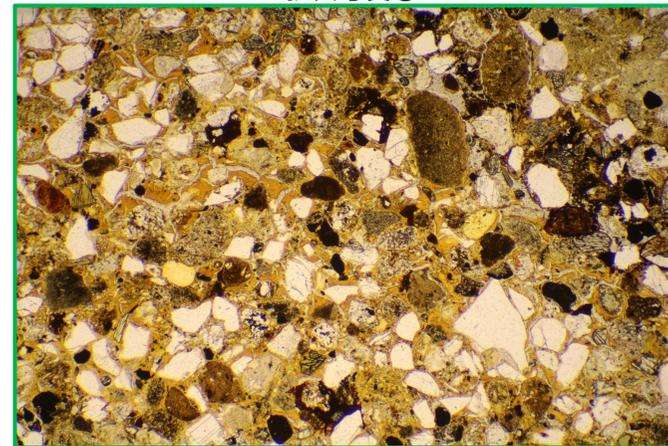
<拡大写真①>



オープンニコル

1mm

<拡大写真②>

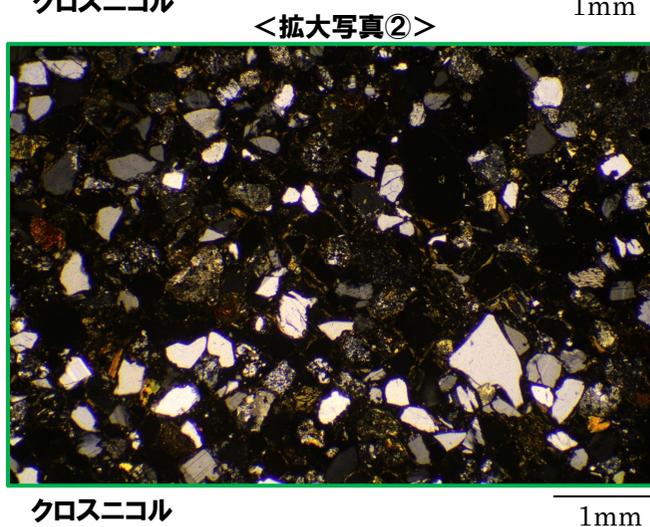
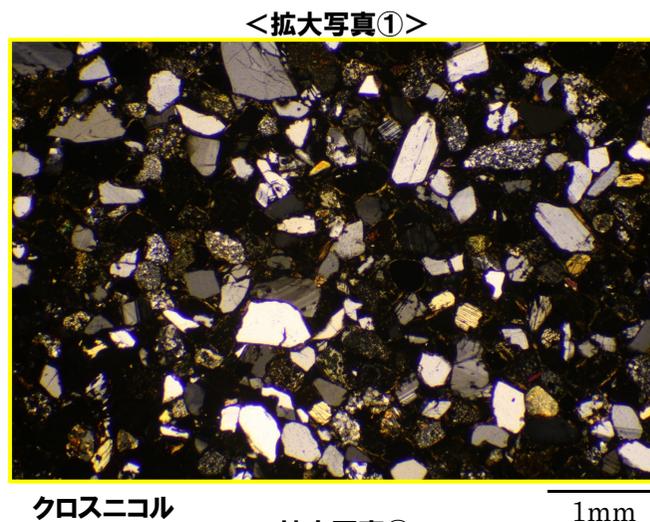
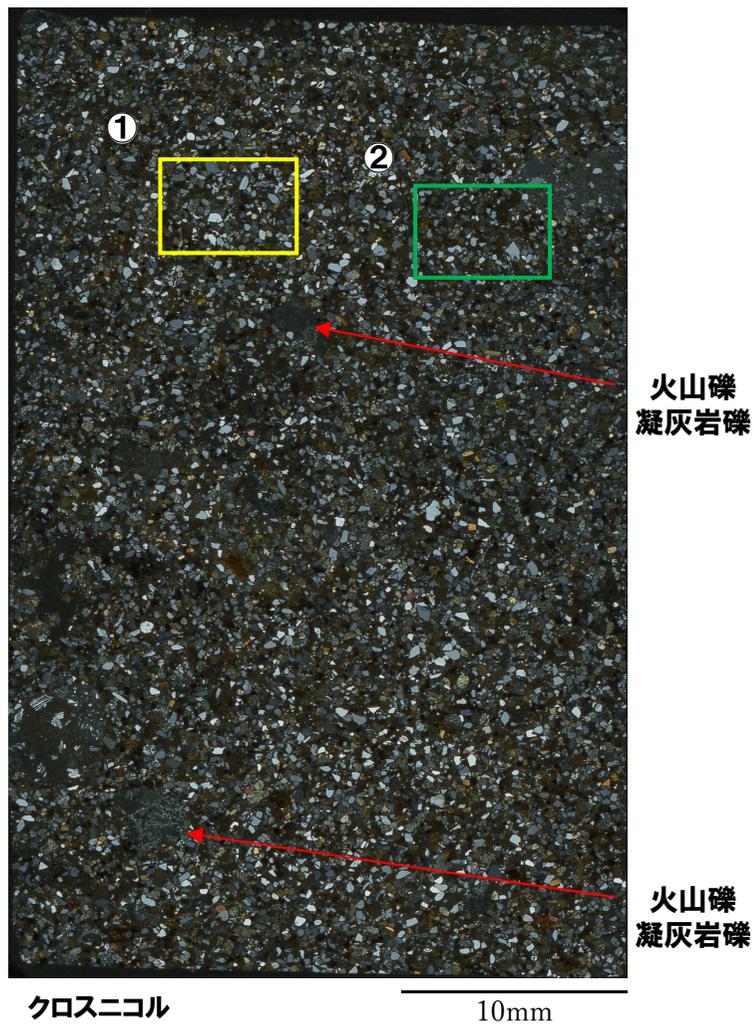


オープンニコル

1mm

2.2.2 地層区分の妥当性

①薄片観察-SKB-TW-1-2(2/2)-

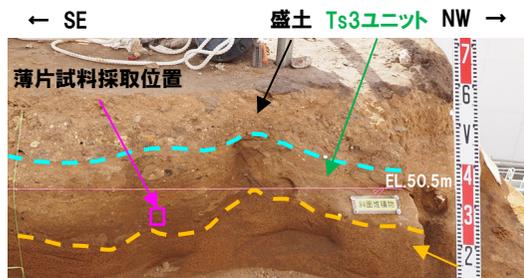


2.2.2 地層区分の妥当性

①薄片観察-SKB-TW-1-3(1/2)-

【SKB-TW-1-3(Ts3ユニット及び遷移部)】

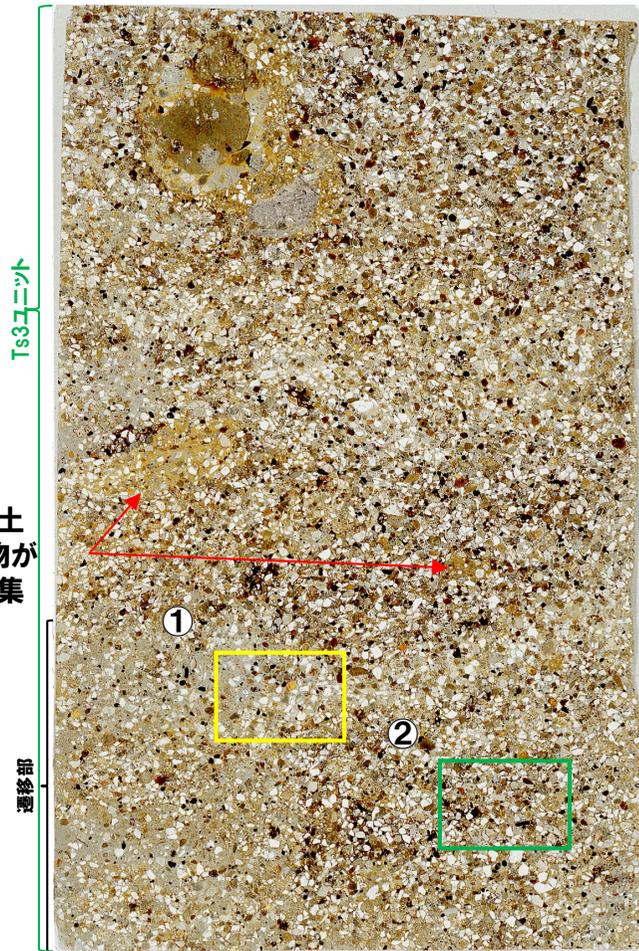
- 上部のTs3ユニットは旧海食崖を形成する基盤岩である火山礫凝灰岩由来と考えられる中礫サイズの亜円礫が認められ、局所的に濃集する箇所が認められる。また角ばった砂粒径の碎屑物を主体とし、丸みを帯びた砂粒径の碎屑物が少量混じる。
- 下部の遷移部は丸みを帯びた砂粒径の碎屑物を主体とし、角ばった砂粒径の碎屑物が少量混じる(拡大写真①及び②)。粒子間に少量の泥粒径の碎屑物及び粘土鉱物が認められる。



開削調査箇所(南側)南側壁面の背後法面
薄片試料採取位置



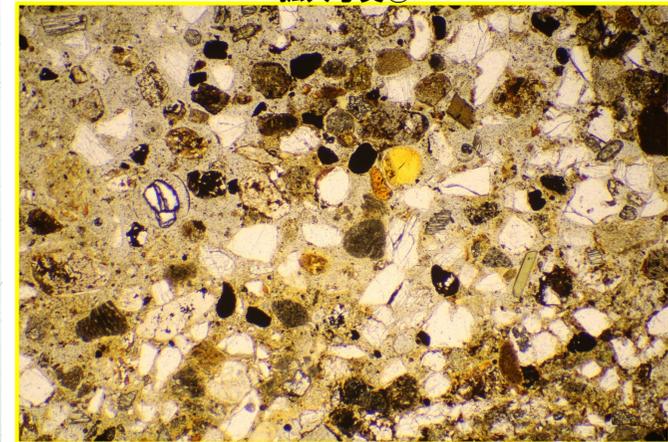
薄片試料写真(作成前)



オープンニコル

10mm

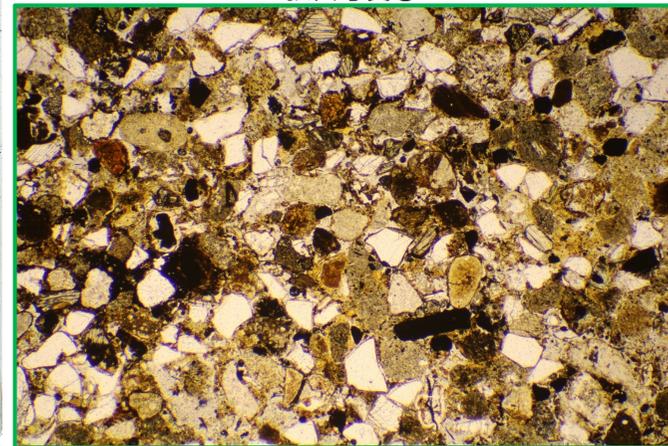
<拡大写真①>



オープンニコル

<拡大写真②>

1mm



オープンニコル

1mm